

圖師庄一郎著

第二版

手續
參照
會計論綱
完

經營社發行



會計検査院部長正四位勳二等濱弘一君書簡

有為先務會計編纂

清道 序文也

趣彙集未定之可讀

此一丸題名は但て綱

とあるとあるとあるとある

有見 事 対物 性

會科 は 裡 心 生 性

を 送 り と 之 の 取 り

了 し て 殊 に 便 益 無 妙

法 者 作 る 為 す 者

大 見 る 字 族 性 性

十月一日

一〇

國師大兄
存心

會計論綱序

國家ノ經濟ハ財政ノ是非ニ鑒ミ以テ其良否ヲ判スヘク
ク國家ノ財政ハ會計法規ノ得失ニ考ヘ以テ其是非ヲ
窺フヘシ蓋シ會計法規ノ要ハ立法行政司法三者ノ脈
絡系統ヲシテ井々條アラシメ以テ施行ノ順序ヲ簡明
ニスルニアリ故ニ會計ヲ職トスルモノ此訣ヲ奉シテ
以テ周旋スレハ事ニ臨ミテ運用自在毫モ滯礙アルナ
シ果シテ然ラハ財政モ亦タ隨テ是ナラサルナク而シ
テ經濟ノ善良得テ期スヘキノミ余此說ヲ持スル久シ
職ヲ財務ニ奉スルニ及テ專ラ會計ノ調査ニ從ヒ法規
ノ制定ヲ事トス爾來十有五年閱歷愈深ク益其說ノ誤
ラサルヲ知ルナリ然ラハ則チ井條簡明ニ從フノ道如
何スレハ則チ可ナル蓋シ物自ラ序次アリ之ヲ網罟ニ

喩フレハ其綱先ツ舉リテ而シテ後其目張ルナリ今夫
 レ國家ノ經濟其出納數億ヲ超フ一般ノ會計アリ特別
 ノ財務アリ千百多端其法條亦タ從テ多シ故ニ先ツ其
 綱領ヲ知ラサレハ徒ラニ多岐ニ迷フノ歎ヲ免レス猶
 ホ其綱ヲ舉ケスシテ徒ラニ其目ノ張ランコトヲ望ム
 カコトシ豈ニ得ヘケンヤ是レ他ナシ序次ヲ誤レハナ
 リ圖師君ノ此著アル乃チ其綱ヲ舉クル所以ニシテ所
 謂井條簡明ニ從フノ道ナリ先ツ我心ヲ獲ル者ト謂フ
 ヘシ故ニ其序ヲ請フニ及テ一言ヲ卷端ニ辯シ以テ此
 書ヲ讀ム者ニ告ク

明治三十二年十月十九日

法學博士 阪谷芳郎識

自序

昭代文運ノ進歩ニ伴ヒ國法ノ研磨モ蘊奧ヲ極メ其境
 原亦開拓ノ餘地ナキニ至レリ然ルモ翻ツテ眼ヲ其一
 部落タル財務行政ノ法域ニ注ケハ洞裡ノ天地徒ラニ
 秦時ノ舊夢ヲ貪リ猶學者杖屐ノ痕跡ヲ止メサルノ地
 アリ

是必竟東洋古來ノ通慣トシテ徒ラニ清貧高潔ヲ尙ヒ
 此學ヲ賤ミ此業ヲ輕ンシ此吏ヲ踈ンシタル餘弊ノ致
 ス所ニ外ナラス然ルモ顧ミテ宇内ノ大勢ヲ通觀スル
 トキハ富國ノ術強兵ノ策德澤ノ潤風教ノ美一ニ其源
 泉ヲ此ニ汲マサルナシ豈又東洋舊慣ノ墨守ヲ許サン
 ヤ不肖孤勇ヲ鼓シテ此境域ノ探險ヲ試ム亦國ヲ思フ
 ノ微衷ニ外ナラス頃日苦辛ノ餘瀝漸ク一書ヲ成ス以
 テ世ニ公ニセリ然レトモ學識ノ淺膚ハ以テ苦難ノ痕

跡ヲ表示スルニ足ラス時日ノ短少ハ以テ涉獵ノ廣キ
ヲ許サス爲メニ此境行旅者ノ好指針タルヲ得サルハ
自ラ深ク恥ル所ナリ只後ノ勇將猛士此境ヲ涉跋スル
ニ當リ幸ニ津頭ノ一筏タリ溪口ノ一梁タルヲ得ハ著
者ノ面目又何ヲカ加ヘン矣

明治三十二年十一月念一日

於日暮里松濤庵

鐵笛識之

再序

財政ノ須要ハ外交ト相並ンテ國政ノ主腦ヲ爲シ實ニ
其實蹟ノ舉否ハ一國民命ノ休否ニ關セリ今ヤ吾國ハ
其兵力ニ於テ學術技藝ニ於テ世界諸強國ニ比シテ敢
テ軒輊ナキノ地位ニ進メリ然ルモ翻ツテ其内容如何
ヲ精査スレハ猶實力ニ於テ遙カニ彼ニ及サルモノア
ルハ何ソヤ是必竟外交財政ノ二者彼ニ比シテ缺クル
所アレハナリ而シテ其人物ノ如キモ外交財政ニ至ツ
テハ殆ント皆無ノ觀ナクンハアラス今假リニ外交ノ
コトハ暫ク論外ニ置キ財政面ヨリ觀察スルモ其實蹟
ノ不舉人物ノ缺乏轉々寒心ニ堪ヘサルモノアリ
抑モ財政ノモノタル外面ヨリ見ルトキハ單ニ數字ノ
行動ニ過キスシテ甚タ簡單平易ノ觀アルモ其實體ヲ
窺フトキハ其事務ノ性質タル尤モ緻密周到ヲ要シ手

續ノ繁雜組織ノ細微又特別ノ經驗智能ヲ要シ決シテ
普通何人ノ頭腦ヲ以テスルモ理解シ得ヘキ事項ニア
ラス然ルニ實際之ニ從事スル吏員監督者ノ如何ヲ見
ンハ其腦組織疎放ニシテ財務行政上ノ智識ヲ缺ク者
其任ニ當リ或ハ支那流ノ古豪傑ヲ氣取り數ノ素養法
ノ觀念絶無ノ輩ニシテ監督ノ任ニ當ルモノサヘ少ナ
カラス其財政實務ノ舉ラサル又怪シムニ足ラサルナ
リ見ヨ上帝國議會ヨリ下市町村會ニ至ル迄ノ實狀ヲ
當初豫算要求ノ際ハ多少其要否ニ對シテ云爲スル者
ナキニアラサルモ一度豫算成立センカ其支出ハヨシ
雲トナリ烟トナルモノアルモ又其決算ト對比シテ其
効果ヲ論難スルモノアラサルナリ苟クモ一國公益ノ
保持者ヲ以テ自任シ居ルノ徒至心國ヲ思ヒ民ヲ愛セ
ハ其空漠ノ思想ヲ抛テ何ソ此一國民命ニ直接ノ關係

アル財政ノ整否ニ着眼セサル幸ニ國庫ノ收支ハ検査
院ノ如キ獨立官府アリテ嚴密ノ監督ヲ爲スモ地方團
體年々幾千万ノ收支ハ殆ント無監督ノ下ニ收支セラ
レツ、アリ又一顧ヲ要スル大問題ナラスヤ
著者ハ此心念ノ刺衝ヲ制スル能ハス昨冬吾現行財務
行政ノ法理ヲ解説シテ世ニ公ニセリ然ルニ幸ニ世上
ノ歡迎ヲ受ケ數月ナラサルニ初版ノ缺本ヲ告ケタリ
而シテ其後當局者法令ノ改正モ著者ノ所論ト歸一ス
ルモノ一ニシテ足ラス殊ニ學者實務家議員等ヨリ替
辭批評ヲ惠マル、モノ少ナカラス就中有賀博士ノ如
キハ著者ノ所論及國法上ノ斷案ニ對シテ詳細ナル批
評ニ加ヘテ誤字誤植迄一々指摘セラレタリ是皆著者
ノ感謝ニ堪ヘサル所ナリ此回更ラニ誤ヲ正シ足ラサ
ルヲ補ヒ再版ニ付セリ幸ニ此道研究者ノ指導トナリ

又國力發達ノ一動機ニ毫釐ノ裨益アラシカ著者又何
ヲカ望マン

明治三十三年十月下旬

著者 鐵笛記之

手續 會計論綱

目次

第一編 總則

一 會計法ト財政トノ關係

二 會計法ノ法性

三 會計法ノ種類

四 會計手續ノ段階

五 會計期間

甲 會計年度

乙 整理期間

六 出納ト現金

七 會計機關

八 歲入歲出ト特別資金

九 期滿免除

第二篇 各論

目次

一 一 一 二 三 三 七 一〇 二 一六 一八 二三

第一章 豫算論

第一節 概論

第二節 歳入歳出概算書

第三節 豫定經費要求書

第四節 總豫算案ノ編製

第五節 豫算案ノ議定

第一款 豫算案ノ提出

第二款 豫算案ノ議定機關及議定方法

第六節 豫算ノ裁可公布

第七節 豫算ノ効力

第八節 豫算ノ種類

第二章 歳出論

第一節 歳出ノ範圍

第二節 歳出ノ資源

第三節 歳出前ノ注意事項

第一則 經費ノ使用上年度區分ヲ誤マラサルニアリ

二三

二三

二八

三一

三六

三七

三七

三八

四七

四九

五三

五九

五九

七二

七三

七四

例外一過年度支出

七五

同一繰越使用

七七

第二則 支出科目ヲ誤マラサルニアリ

八〇

第三則 豫算ノ目的ヲ誤マラサルニアリ

八〇

第四則 科目ノ流用ヲ誤マラサルニアリ

八〇

第五則 過誤拂ヲ爲サ、ルニアリ

八四

第六則 支拂豫算超過ノ命令ヲ發セサルニアリ

八五

第七則 歳入ヲ以テ直チニ歳出ニ充テサルニアリ

八五

第四節 歳出方法

八六

第一款 支出

八七

第一則 仕拂命令發行ノ準則

八八

第二則 仕拂命令ノ効力

九二

第三則 支出ノ整理

九五

第二款 仕拂

九五

第一則 現金前渡ノ理由及ヒ其場合

九五

第二則 現金前渡ノ仕拂命令發行 附記 年度開始前ノ支出

九八

三第則 現金前渡ヲ受ケタル官吏

第四則 現金前渡ノ整理

第三款 概算渡繰替拂前金拂

第四款 定額戻入

第五節 歳出ノ種別

第一款 給與

第一則 俸給(一)性質ニ給支ノ準則
(三)支拂義務ノ確定

第二則 死亡賜金(前同)

第三則 退官賜金(前同)

第四則 恩給扶助(前同)

第五則 旅費(前同)

第六則 委任經理

第二款 非給與

第一則 概論

第二則 公債ノ仕拂

第三則 欠損補填

第四則 國庫交付金

甲 概論

乙 府縣災害土木費補助

第三章 歳入論

第一節 總論

第一則 納入義務ノ發動

第二則 納入義務ノ確定

第三則 納入調定

第四則 納入手續

第二節 國稅徵收手續

第一則 徵收手續

第二則 滯納處分

第三則 國稅徵收後ノ整理

第三節 租稅外收納徵收手續

一 諸收納調定元帳調製

二 徵收手續

一〇〇

一〇〇

一〇一

一〇四

一〇五

一〇六

一〇六

一一〇

一一一

一一三

一二七

一三七

一三九

一三九

一四〇

一四三

一四六

一四六

一四七

一五六

一五六

一五六

一五八

一五八

一五九

一五九

一六二

一六三

一七四

一七六

一七七

一七八

三	收納報告書調製	一八一
四	收納計算書及現金收納計算書ノ調製	一八一
五	歳入調定計算書	一八二
六	歳入調定濟額收入未濟ノ取扱 附記爲替納金	一八二
第四節 歳入ノ種別		
第一款	概論 附記直接税間接税ノ區別	一八五
第二款 直接税		
第一則	地租 <small>(其性質課税物體課税ノ準則納入義務ノ權定)</small>	一八七
第二則	所得税(前同)	一九二
第三則	營業税(前同)	一九六
第三款 間接税		
第一則	酒造税(前同)	二〇一
第四章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借		
甲	競争ニ付スヘキ場合	二〇六
乙	競争方法 <small>附記指名競争</small>	二一三
丙	契約ノ執行	二一八

附記直營事業

第五章 物品會計論

第一節 概論

第二節 本論

一 物品會計規則制定ノ趣旨

二 物品ノ解

三 會計年度

四 物品出納ノ機關

五 物品ノ出納

六 物品出納簿其記載例

七 物品會計官吏ノ責任

八 物品ノ検査

九 計算書調製

十 下検査

十一 身元保護金

附記陸海軍ノ兵備品

第六章 特別會計論

第一節 概論

第二節 本論

第一則 作業特別會計

第一 資本

第二 豫算ノ編成

第三 收入支出

第四 決算及證明

第五 資本ノ價格計算及受拂勘定

附記生産品ノ原價賣價ヲ定ムル法則

第六 工事物品ノ賣買貸借

第七 出納官吏

第八 帳簿

第二則 各資金特別會計

第一 官設鐵道用品資金設置ノ趣旨

第二 此資金ノ作用

二二三

二二三

二三九

二三九

二四〇

二四一

二四二

二四七

二四八

二五三

二五三

二五三

二五四

二五四

二五五

二五五

第三則 官立學校圖書館特別會計

第一 此特別會計設置ノ趣旨

第二 資金

第三 學校圖書館ノ歳入歳出

第四 豫算決算

第五 收入支出

第六 年度繰越歳入残餘

二五七

二五七

二五七

二五八

二五九

二五九

二六〇

二六一

二六一

二六四

二六四

二六四

二六六

二六六

二六七

二六九

第七章 金庫論

第一節 概論

第二節 本論

第一則 金庫ノ種別

第二則 金庫事務ノ取扱者

第三則 金庫出納事務

甲 總説

乙 歳入部

丙 歳出部

丁 各特別會計ノ歲出歲入計

二七三

戊 雜部

二七五

己 豫金部

二七六

庚 現金運轉

二七八

附 一回送金

二七九

二振替金

二八〇

三爲替納金

二八二

第八章 出納官吏論

二八四

第一節 概論

二八四

第二節 本論

二八五

第一則 出納官吏ノ責任

二八五

第二則 出納官吏ノ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル手續

二九二

第三則 出納官吏ノ身元保證金

二九五

第四則 出納官吏ノ監督手續

二九七

第九章 決算論

三〇二

第一節 概論

三〇二

第二節 本論

三〇六

第一則 政府ノ決算及附屬書類調製手續

三〇六

第一 各省決算報告書

三〇六

第二 國債計算書

三〇七

第三 各特別會計々算書

三〇七

第四 總決算

三〇七

第二則 會計検査院決算ノ検査

三〇九

第三則 帝國議會決算ノ審査

三〇九

第十章 會計検査院論

三一一

第一節 會計検査院ノ組織權限

三一一

第二節 職權

三一三

第一則 各會計ノ検査監督

三一三

一 書面検査

三一四

二 實地検査

三一五

第二則 各決算ノ検査

三一六

第三則 検査報告

三一六

第四則 行務成績書

第五則 委托検査

第六則 再審

第七則 雜事

三一七

三一八

三一八

三一九



續 會計論綱

圖師庄一郎著

第一編 總則

一會計法ト財政トノ關係 國家モ權力及ヒ權利義務ノ主體トナリテ其生存ヲ維持スル以上ハ之レニ伴
 フ費用ヲ要スルハ當然ナリ此費用ノ支出ヲ名ケテ歲出ト云ヒ之レカ支給ニ供スル資産ノ收納ヲ歲入
 ト云フ而シテ此歲入歲出ノ調和ヲ計リ其歲入ハ如何ニシテ充タスヘキカヲ講スルハ財政ノ專務トス
 ル所ニシテ此財政計畫ニ基ク歲入歲出ヲ整理スルノ手續ヲ會計法ト云フ國家歲出ノ如何ハ其國家カ
 施設スヘキ任務ト設備ノ如何ニヨリテ決セラレ敢テ財政ノ關スル所ニアラサルモ此歲出ノ資源即チ
 歲入ハ如何ニシテ得ヘキカヲ定メ此歲入ニヨツテ其國家ノ任務ノ範圍設備ヲ伸縮スルハ財政ノ主ト
 シテ關與スル所ナリ而シテ此財政計畫ヲ圓滿ニ運用スルハ專ラ會計法ノ擔任ニ屬ス



二會計法ノ法性 前陳ノ如ク會計法ハ財政計畫ニ基ク法令及ヒ豫算ヲ運用スル手續法タルニ過キサレ
 ハ源ヲ憲法ニ發シ會計法ナル特別ノ法律ヲ以テ補足セラレ、ニ拘ハラス其法性全ク助法即チ手續法
 ニ屬シ此法規ノミ獨立シテ活動スル場合ハ僅少ノ例外アルニ過キス而シテ此法規ノ効力ノ及ホス範
 圍モ單ニ官府間ニ止リテ又一私人ニ對シテ効力ナキヲ本質トス偶其効力アルハ時効即期滿免除等ア
 ルニ過キス故ニ此法規ノ準則ヲ以テ直ニ一私人ヲ拘束スルヲ得ス

三會計法ノ種類 會計法ノ二大別ハ一〇會計ト特別會計ナリ此種別ノ依テ來ル原因ハ主トシテ收入支出ノ混用ヲ許スト否トヨリ來ル一般會計ニ於テハ國家ノ歲入ハ何如ニ費用ヲ要スルモ凡テ之ヲ政府ニ納入シ歲出ハ別途ニ支出スルヲ不動ノ確則トス是レ收入ヲ以テ直チニ其官廳ノ支出ニ充ル如キ收支ノ混用ハ歲入歲出ノ全體ヲ達觀スルヲ得サルノ結果財政ノ鞏固ナル基本ヲ確立スル能ハサルノ不便アルヲ以テ現今ノ財政術ニ於テ此收支ノ混用ハ一般ノ會計上堅ク禁スル所ナリ是收入支出ハ總テ總豫算ニ編入シ其例外ヲ認メサル所以ナリ(會計法第二條)然ルニ特別會計ナルモノハ特別ノ資金ヲ有シ此資金ニヨツテ或ル公益又營利ノ事業ヲ營ムコトヲ許サレタル財團ナリ(勿論人格ナキモ)故ニ其事業ヨリ得ル收入ヲ以テ直チニ其支出ニ充テ不足スレハ補填ヲ受ケ益金又殘餘アレハ之レヲ一般歲入ニ納入シ又其特別資金ニ加フルノ特別ヲ有ス是一般會計ト特別會計ト異ル要點ナリ猶詳細ハ特別會計ノ部ニ論セ

ン此他ニ存スル者ハ物品會計ナリ此會計ノ本旨ハ政府ノ所有スル動産ヲ責任ヲ有スル物品會計官吏ニ保管セシメ其出納ヲ明ニスル爲メ設ケラレタル規則ニ外ナラサレハ敢テ特別ノ會計ト云フヲ得サルモ又一般會計タル金錢ノ收支ト異ル所アレハ國家ハ特別ノ規則ニ據ラシメタリ

四會計手續ノ階段 會計手續ノ第一階段ハ豫算ノ編製ニアリ豫算ハ歲入歲出ノ豫測ニシテ行政官之レヲ編製シ議會之ヲ議定シ元首ノ裁可公布ヲ得テ此ニ遵由ノ効ヲ生スルモノトス然ルモ此豫算ナルモノハ歲入ニ對シテ効力甚微弱ニシテ主タル目的ハ歲出ニ存スルモノトス何トナレハ歲入ハ各特別ノ法律命令又行政官府ノ任意行爲ヨリ生スルモノニテ豫算ヲ待チテ其手續ヲ爲スモノアラス然ルニ之

ヲ豫算ニ表示スルハ只歲出トノ平衡ヲ保持スル爲メ換言スレハ其歲出ノ資源ハ何レヨリ來ルカヲ示スニ過キス豫算此ニ公布セラルレハ之ニヨツテ第二段ノ行爲タル收入ト支出トハ開始セラル、モ收入ハ前ニ論セシ如ク豫算ノ効力アルモノニアラサレハ單ニ支出ヲ豫算ニ基キ實施スルニ過キス而シテ此收入支出ノ完結ヲ決算ト云フ是會計手續ノ第三段階ニ屬スルモノニテ會計手續ハ此ニ終了スルモノナリ此ニ猶附屬スル第四段階ノ行爲ハ監督行爲ニシテ此決算ニ對シ會計檢査院カ施ス檢査ト帝國議會ノ審査是ナリ

五會計期間

甲會計年度 國家ノ歲入歲出ヲ一定ノ豫算ニヨツテ收支スル以上ハ此豫算ニ基ク歲計ノ執行期間ナカ
ル可ラサルハ必然ノ事理ナリトス於此乎會計年度ノ制度起ル會計年度トハ收入支出ノヨツテ生スル事實ニ一定ノ限界ヲ付シ何年何月何日ヨリ何年何月何日ニ至ル間ノ收入支出ハ何年度ニ屬スルモノ
ナリトシテ會計事項ヲ整理セル爲メ設ケタル一箇ノ期間ナリトス此期間ハ會計事項即チ收入事實支
出事實ニ限界ヲ付シタル點ニテ必スシモ此期間ニ收入支出ヲ終ヘサル可ラナル期間ニアラス故ニ其
收入支出ノヨツテ起ル事實タニ其年度内ニアラハ實際ノ收支ハ此後ニ爲スモ妨アラス此實際ノ收支
モ亦無際限ニ爲スヘキニアラサレハ從ツテ此收支ノ整理期間ノ制ヲ定メサルヘカラス此點ハ以下ニ
詳述スヘシ此會計年度ハ吾國ノ現行法ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日ヲ以テ一年度トセリ併シ此
年度ノ規定ハ其國收入ノ狀態豫算編製ノ時期等ニ斟酌シテ定ムヘキモノニシテ年度開始ニ際シテ直

ニ歳入ヲ得ラル、時期ニ其開始ヲ定ムル如キハ國庫金運用ノ上ニ大ナル關係ヲ有スルモノトス吾國田租ノ如キ主要ノ收入ハ翌年度五月ニ至ツテ其第四期納入ニ際スルヲ以テ此便宜多キト議會ノ開會ハ毎年十一月ナルヲ以テナルヘク年度ニ接近セル時期ニ豫算ノ議定ヲ爲サシメ事實ノ豫測ヲ切實ナラシムル等ノ事由ヨリ四月ヲ以テ年度ノ開始トナシタルモノトス尤モ此年度制ハ吾國ニ於テモ曆年度ニヨリ一月一日ヨリ十二月三十一日ニ終リタルコトアリ(明治七年十月十三日以後)又七月一日ニ始マリ其翌年六月三十日ニ終リタルコトアリ(同七年十月十三日以後)而シテ現今ノ制ハ其第三回ノ制度ナリ外國ニテモ佛蘭西、埃地利、露西亞、瑞西、白耳義、諾威、瑞典、土耳其ハ曆年度ニヨリテ一月一日ヨリ十二月三十一日ヲ一會計年度トシ英吉利、普魯西、丁株等ハ吾國ト同一ニ四月一日ヨリ翌年三月三十一日ヲ以テ一會計年度トシ北米合衆國、伊太利、西班牙、葡萄牙ハ七月一日ヨリ翌年六月三十一日ヲ一會計年度トセリ會計年度ノ起始終了ハ以上ノ如ク差異アルモ概シテ一周年ヲ出テス是一周年ハ事物ノ循環シテ一段落ヲ付スルノ期間ナレハ此期間ヲ限度トシテ政費ノ整理ヲ遂ケ其決算ヲ精査スルハ尤モ便宜多ケレハナリ然ルモ必シモ一周年ヲ以テ其限度トセザル可ラサルニアラス獨逸聯邦二三ノ邦國ニテハ二年三年ヲ以テ一會計年度トスルアリ(巴威里、索通、敦瓦堡、巴丁)又吾國ノ如キモ廿七八年役ノ戰費ハ二箇年ヲ通シテ一會計年度トセリ併シ長期ニ渉ルニ從ツテ整理ノ困難ヲ來スハ當然ナレハ特別ノ事情ナクハ一周年ヲ至當ナリトス此會計年度ノ分界ハ如何ニシテ區別スルカハ一疑問ナルモ普通ノ場合ハ前ニモ説明セシ如ク其事實即收入事實支出事實カ何年度内ニ起リタルカヲ見其事實ノ起リシ年月ヲ以テ區別セ

ハ別ニ困難ナシ即チ俸給ノ如キハ其年月日ニヨリ旅費ハ其旅行ノ事實ニヨリ物件ノ買入レハ支拂義務ノ確定セル年月ニヨル等明瞭ナルモ收入ニ至ツテハ租稅ノ如ク納期ノ一定セルモノハ疑ナキモ時ニ過拂誤渡ノ返納金物件拂下代其他隨時ノ收入アリテ其何年度所屬ノモノナリヤ明瞭ヲ欠ク場合少ナカラス此ニ於テ會計規則ハ其第一條第二條ニテ此點ヲ明示セリ其要領ハ收入ハ納入義務ノ確定セル日支拂ハ支拂義務ノ確定セル日ニヨツテ區別スルニ外ナラサルモ今是ヲ一々明示セハ其第一ハ納期ノ一定シタル收入(租稅ノ如キヲ云フ)ハ其納期末日ノ屬スル年度ニヨルトセリ此等ハ納期日ニ依テ區別セルモノナリ第二ハ隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發シタルモノハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度ニヨルトシ第三ハ隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサル者ハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル日ノ年度ニヨルト定メタリ此隨時收入ナル者ハ物件ノ拂下代其他官業收入ノ如ク一定ノ收入時期ナキ者ニシテ其都度收入スルモノナレハ或ハ其收入ヲ命セシ日(第二條)又實際收入セシ日ニヨツテ年度區分ヲ爲スコト、セリ此納額告知書ヲ發スヘキモノト否トハ收入ノ部ニ説明スヘキモノ一例ヲ示セハ普通ノ物品賣拂代ノ如キハ納額告知書ヲ發スルモ郵便切手賣下代官報賣下代ノ如キハ之レヲ發セス直チニ收入官吏ニ納付セシムルヲ普通ノ手續トス(諸收納取扱規程第二條)第二條ハ歳出ノ所屬年度ニシテ第一ハ公債ノ元利、賞勳、年金、恩給諸祿ノ如ク支拂期日ノ一定セルモノハ此日ノ所屬ニヨツテ區別シ第二ハ諸拂戻欲損補填ニシテ此等ハ其拂戻又ハ補填ノ決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度ニヨルトセリ其諸拂戻トハ租稅等ノ過納ニ重納ノ拂戻ニシテ欲損補填トハ歳入歳出金ノ盜難其他不可抗力ノ事實ニヨル欲

額ヲ補填シ歳入歳出ヲ確實ナラシムルモノヲ云フモノナレハ其支出ヲ決定セシ日ニヨルハ至當ナリ
 第三ハ俸給手數料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度ニヨルモノトセリ此旅費
 ノ支給ニ付テ流車旅行水路旅行ノ場合ハ疑問多キモ内國旅費規則第七條及ヒ陸軍給與令細則第十九
 條ハ此場合到達地ニヨリテ區別スヘキ者トセリ第四ハ廳中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類
 ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度ニヨリ土木建築費ノ如キ契約ノ數年ニ涉ルコトヲ得ヘキノハ契約
 ニ依リ定メタル支拂期日ヲ以テ區分スヘキモノトセリ本項中疑問トナルハ本年度内納入期日ヲ定メ
 タル物品ノ其年度後始メテ納入セシトキハ其支拂ハ何年度ノ經費ヲ以テ支拂フヘキヤニアリ此疑問
 ヲ決スル前豫決スヘキ問題ハ契約ヨリ來ル政府ノ支拂義務ノ確定トハ何レノ時期ヲ指スカノ點是ナ
 リ此點ニ付テ會計法解釋者ハ皆物品購入契約ノ如キ場合ニハ現實ニ政府ニ物品ヲ納入セシトキニア
 ラサレハ政府ハ支拂義務ハ生セストセリ此理論ノ根據ハ會計法第二十五條ノ軍艦兵器彈藥ヲ除ク外
 工事製造又ハ物件買入レノ爲メニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ストアリ又會計規則第六十八條ノ物品ノ全
 部已納トナラサル以前ノ支拂ハ其已納部分ノ代價ノ五分ノ四ヲ超過スルヲ得ストアルヨリ來リシモ
 ノナランモ此明文アル爲メニ政府ト個人間ノ取引ニ何モ普通民法上契約ヨリ來ル原理ニ除外例ヲ置
 クノ必要ナシ必竟此法文ハ政府ノ取引ニ官吏ノ私曲意慢ヨリ損失ヲ被ルコトナカラシメン爲メノ法
 文ニ外ナラサレハ毫モ支拂義務ノ消長ニ關スル法文ニアラス義務アルヲ以テ直チニ支拂ヲ爲スヘキ
 モノニアラス支拂ヲ爲サレハトテ義務ナシト云フ可ラス已ニ然レハ前金拂ヲ許サストテ支拂義務

ナシトノ解釋ハ至當ナリト云フヲ得ス翻ツテ本問ヲ決センニ此現實解釋ヲ取ルモノハ前例ノ如キ場
 合ニハ支拂義務ノ發生ハ年度經過後即チ來年度ニアレハ其支拂モ其後年度ナラサル可ラスト云フモ
 此支拂義務說ノ根據ナキコト前ニ辯スル如ク且會計法上ノ支拂義務ナリトテ別ニ其發生原因ニ民法
 上ノ例外ヲ認メサル以上ハ此經費ノ如キモ苟モ其年度ノ納入ヲ豫想シテ契約セシモノ、如キハ本項
 ニヨリ其契約年度ヨリ支出スルヲ至當ト認ム況ンヤ其年度ニヨリテ決定シタル經費ハ他年度ニ於テ
 使用スヘカラサルハ會計法上ノ大原則(會計法第三條)ナルノミナラス豫算ノ効力ヲ維持スル上ニ於テモ亦然
 ラサルヲ得サレハナリ第四前各項ニ掲クル類別ニ入ラサル費用ハ總テ支拂命令ヲ發シタル日ノ年度
 ノ所屬トスルモノトス是支拂命令ヲ發スルハ凡テ支拂義務ノ確定セルモノニ對シテ發スルモノナレ
 ハ是ニヨツテ決スルハ尤モ穩當ナリトス
 政府ハ三三年三月奇怪ノ改正ヲ爲シタリ且會計規則第三十一條ノ二ニ納期ノ
 一定シタル取入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納額告知書ヲ發セサルモノハ總テ
 納額告知書ヲ發シタル年度ノ歳入ニ編入スヘシトノ法文ヲ取入ノ部ニ規定シ
 第一條第一號ノ例外ニ意外ノ場所ニ挿入セリ而シテ其規定ハ議論ナキニアラス

乙整理期間 會計年度ナルモノハ歳入歳出ノヨツテ生スル事實上ノ期間ナリ然ルモ此期間ヲ設ケタル
 ヲ以テ此期間内ニ凡テノ歳入歳出ヲ現實ニ結了スルハ事實不能ノ事タリ何者甲年度三月三十一日迄
 ニ起ル凡テノ事實ニ對シ收入支出ノ命令ヲ下シ之ニヨツテ其命令ヲ實行シ現金ノ出納ヲ爲ス能ハサ
 レハナリ於是乎整理期間ノ必要起ル整理期間トハ年度内ノ出納ハ年度内ニ決スル能ハサルヲ以テ之
 レヲ整理スル爲メ更ラニ一定ノ期間ヲ設ケタルニ外ナラス此整理期間ハ更ラニ小分シテ(一)支拂命
 令ノ發行期間(二)金庫出納期間(三)出納事務ノ終了期間ニ區別セントス

(一)支拂命令ノ發行期間 會計年度ハ其年ノ四月一日ニ初マリ三月三十一日ニ終ルヲ以テ此期間ニ國

家カ支出スヘキ經費ノ種目ハ俸給アリ旅費アリ物件ノ購入アリ工事製造等其種類一ナラス此諸般ノ支出ハ年度内ニ終了スル能ハストセハ此支拂事實ヲ調査シテ國家カ支拂ヲ爲スハ何月迄ナルカ會計規則ハ云フ各年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ支拂命令ヲ發スルハ翌年度六月三十日限リトス(會計規則第四十四條)故ニ其年度内ノ經費ノ支拂ハ其翌年度ノ六月三十日迄ニアラサレハ最早支拂命令ハ發スルヲ得ス然ラハ此期間内ニ支拂命令ヲ發シ得サル場合アリトセハ如何ニ處スヘキ換言スレハ一私人カ國家ニ對スル債權ハ此期間内ニハ消滅セサルヘシ故ニ國家ノ機關ハ此期間内ニアラサレハ支拂命令ハ發行シ得ストスルモ一私人ノ請求ニハ應セサルヲ得サルヘシ故ニ其年度内ニ起リシ事實ニ對スル支拂ノ請求其翌年度六月三十日以後ニ起リシトスレハ國家ハ最早其年度ノ支出トシテ支拂ヲ得ス其請求セラレタル年度ノ支出トシテ時効即期滿免除ノ期間内ハ支出セサル可ラス此支出ヲ名ケテ過年度支出ト云フ過年度支出トハ既往年度ノ支拂ヲ現年度ヨリ爲スモノナレハ會計法上ノ大原則タル其年度ノ歳出ハ其年度ノ歳入ヲ以テ支辨スヘシトノ原理ニ例外ヲ爲スモノトス此過年度支出ノコトハ支出ノ部ニ詳論スヘシ

(二)金庫ノ出納期間 此金庫ナルモノハ國庫ノ現金ヲ收支スル所ナルヲ以テ支拂ノ命令アレハ此ニ命令ヲ得テ現金ノ支拂ヲナシ收入ノ命令アレハ其命令ト共ニ現金ヲ領收スル國庫唯一ノ機關ナリ此金庫カ各年度ノ歳入歳出金ヲ出納スルハ翌年度七月三十一日限リトス(會計規則第三條)此金庫ノ出納期間ハ間接ニ又收入支出ニ制限ヲ與ヘ此制限ノ結果亦一ノ收入支出期間ヲ爲ス故ニ其翌年度ノ六月三十日以後ニ發行セシ支拂命令ヲ持參シテ支拂ヲ求ムル者アルトキハ金庫ハ之ヲ拒ムハ勿論其己レノ出納期間タル七月三十一日以後ノ命令ハ當然之ヲ拒ムヲ得ヘシ又此金庫出納期間ハ一ノ收入期間ヲ爲スモノトス收入ノ種類千差萬別アルモ國家機關相互ノ間ニハ別ニ收入期間ナルモノ存在セス是レ租稅ノ如キハ一定ノ納入期アリ其他ノ收入ト雖凡テ其納入期日ハ指定シテ命令ヲ發スルヲ以テ別ニ一定ノ收入期ナル者ヲ存スルノ必要ナキモ其年度所屬ノ收入トシテハ金庫關係ニ於テハ一定ノ期間存在セサル可ラス國家カ豫算ヲ以テ歳入歳出ノ限度ヲ豫測シ其年度ノ歳出ハ其年度ノ歳入ヲ以テ支辨スル制度ヲ取リタル以上ハ其歳入ニ於テモ年度所屬ヲ明カニスル一定ノ時期アルヘキハ當然ノ事理ナルヲ以テナリ然ルモ其收入スヘキ事實即チ權利ノ存スルモノハ國家モ棄權スル能ハス(別ニ法律上ノ明文ナキモノハ)一私人モ其義務ハ時効期間内ハ免レサレハ必ス納入ノ手續ハ爲サル可ラス然ルトキハ若シ此七月三十日以後ニ來ル前年度ノ收入ハ金庫ハ如何ニシテ領收スヘキカ已ニ金庫出納閉鎖後ナルヲ以テ之ヲ拒絕スヘキカ此場合ハ支出ト大ニ異リ其收入ハ其現年度即チ其領收スヘキ年度ノ歳入トシテ領收スルナリ彼ノ支出ノ過年度支出ト相類スル所アリ猶此詳細ハ收入ノ部ニ之レヲ論述ス可シ

過年度收入

(三)出納事務整理期間 其年度内ニ發生セシ事實ニ向ツテ支拂フヘキモノハ支拂ノ命令ヲ發シ收入スヘキモノハ收入ス可キ最終ノ時期ハ已ニ前第一第二ニ詳述セシ如ク明瞭ナルモ此期間ハ主トシテ現金收支ノ期間ニアリ其支出ハ總額何程ニシテ豫算ノ款項何レノ科目ヨリ支出シ其收入ハ租稅手數料又官業收入ニシテ其調定金額何程ニシテ實收額何程ナリ等ノ計算事務ノ整理期間ハ前般ノ支拂命令

發行期間金庫ノ出納期間ト同一ナル能ハス換言スレハ收入官吏カ收入報告書ヲ調製シテ歳入ノ事務管理廳(本書ナリ)ニ提出シ此歳入事務管理廳カ其總報告書ヲ大藏大臣ニ送付スル期間又ハ支拂命令官カ支出計算書ヲ調製シテ提出スル期間又歳入調定官カ調定額計算書ヲ調製シテ歳入事務管理廳ニ送付スル期間ハ別個ノ期間ヲ設ケサル可ラス此等ノ期間ハ甚タ煩雜ナルヲ以テ一々其收入事務ハ收入ノ締切ノ期間ヲ舉クルニ止メントス此大藏省カ收入ニ於テハ調定濟額、收入濟額、收入未濟額、支出ニテハ支拂命令濟額ヲ登記スル主計簿ノ締切ハ年度經過後八箇月内即チ翌年度十一月三十日限リナリトス故ニ其年度ノ出納事務ハ悉ク皆此期間迄整理完結セサル可ラス是會計事項最終ノ期間ナリトス(會計法第一條六項)

期間ニ付テハ猶他豫備金支出ノ整理期間検査院ニ對スル證明期間各省決算總決算調製期間等一ナラサルモ却テ其各部ニ分論スルヲ至當ト認メタレハ此ニ詳述セサル可シ

六出納ト現金 歳入ハ法律命令契約等ニヨツテ收納シ歳出ハ豫算ニヨツテ所管大臣之ヲ使用スルモ此歳入歳出ノ事務ト其之レニヨツテ收支スル現金出納ノ事務トハ之レヲ區別セサル可ラス吾國現今ノ法制ニテ歳入ハ其主管ノ官吏之ヲ徵收シ歳出ハ主管大臣使用スルモ此收入支出ニヨツテ活動スル所ノ現金ハ或ル例外ヲ除キ此徵收者使用者ニ保管セシメサルノ制度ヲ採レリ是勿論種々ノ弊害ヲ防止スルノ精神ニ外ナラサルモ現金出納ノ事務ハ亦一面ニ普通ノ行政事務ト大ニ其狀態ヲ異ニスル所アレハナリ此收入支出ノ命令ニ伴隨シ來ル所ノ現金ハ現今ノ制度ニテハ大藏大臣管理スル所ノ國庫ニ於テ收支セリ故ニ此收入ヨリ得ル所ノ現金ノ保管者ハ大藏大臣ナリ大藏大臣ハ此現金ヲ國庫ヲシテ凡テ收納セシメ國庫ハ其現金出納事務ハ金庫ニ取扱ハシメ金庫ノ出納事務ハ日本銀行ノ取扱フ所ナリ併シ法理上ヨリ云フトキハ此收支ニ伴フ現金ノ主管ハ全ク國庫ノ爲スヘキ者ニシテ大藏大臣ハ此國庫ヲ管理監督スル任アルニ過キス國庫ナルモノハ財政上唯一ノ機關ナリ此機關主要ノ事務ナル現金ノ出納ハ目下金庫ノ取扱フ所ニシテ金庫ノ事務ハ日本銀行之レヲ取扱ヒ居レリ然ルモ日本銀行ト金庫ハ混同セルニアラスシテ此金庫ノ事務ヲ取扱フ場合ハ日本銀行總裁ハ金庫出納役タル國庫ノ一機關トナリ各支店代理店ノ支店長代理店長ハ此金庫出納役ノ代理者トナリ其銀行其物ノ事務トハ全ク別個ノ事務ヲ取扱ヒ其金錢ニ至ルモ別個ノ金櫃ニ收納シテ決シテ混用ヲ許サス大藏大臣ハカヽル特別ノ機關ヲ有シテ歳入歳出ニ伴フ現金ヲ保管セリ此現金ノ出納ト豫算ニ伴フ歳入歳出トヲ對比スルハ會計法理研究上甚タ主要ノ事項タレハ今是ヲ對論センニ歳入ナルモノハ豫算ニヨツテ徵收スルモノニアラス全ク法律命令其他ノ私權行為ニ基クモノナリトセハ其豫算ニ之ヲ掲上スルハ甚タ所謂レナキカ如キモ全ク然ラス歳出ノ財源ハ何ニヨツテ支辨シ又其歳入歳出ノ平衡セシヤ否ヤヲ見ルニ必要上豫算ニ掲上セラルヘキ資格ハ十分存スルモノトス然ルニ今翻ツテ歳出ト豫算トノ關係ヲ

見ルニ歳入ト異リテ甚タ主要ノ關係ヲ有ス豫算ナルモノハ國法上ヨリ云フトキハ國家歳出入ノ見積ナリト云フヲ得ヘキモ更ラニ會計法上ヨリ云フトキハ國家經費ノ使用權ヲ主管大臣ニ與ヘタルモノ

現金出納ト歳入歳出

ナリト云ハサル可ラス主管大臣ハ此ノ如ク豫算ニヨツテ其定額使用權ヲ得タルモ此レカ爲メニ厘毛ノ現金ヲ有スルニアラス只此範圍内ニ於テ經費ノ支出ヲ國庫ニ向ツテ命令スル權アルニ過キス斯ク見ルトキハ豫算ハ又國務大臣ノ經費使用權ノ範圍ヲ定メタルモノナリト云フヲ得ヘシ豫算ト歳出トノ關係此ノ如クナルトキハ支拂命令ニ向ツテ國庫ハ之ニ應スル資金アルヤ否ヤハ未定ナリ然ルモ主管大臣ハ此ノ如キ國庫ノ融通如何ヲ考慮シテ其支出ヲ躊躇スヘキ義務アルニアラサレハ國庫内資金ノ寛否ハ主管大臣ノ定額支拂權ヲ掣肘スルニ足ラスサレハ此支拂ニ應シテ國家機關ノ運轉ヲ阻碍セシメサルノ責任義務ハ全ク國庫大臣即大藏大臣ニ存スルモノトス國庫大臣即大藏大臣カ全ク此責任ヲ完フスル爲メニハ歳入カ果シテ其豫算表ニ掲上スルノ額即チ歳出ニ對比シテ平衡ヲ得ルノ額尠現實ニ收納アルヤ否ヤヲ監視シテ若シ不足アリトセハ或ハ臨時議會ノ召集ヲ要請シテ一時ノ借入ヲ爲スカ國債ヲ募集スル等臨機ノ處分ヲ爲シテ其責任ヲ盡サ、ル可ラス此ノ如ク豫算ト現實ノ收支トハ差異アルヲ以テ其歳入豫算ニ於テハ及フ可ク其豫測ヲ確實ニシ國家機關ノ運轉ニ障碍ナカラシムルハ大藏大臣ノ重大ナル責任ノ存スル所ナリ是レ豫算ノ編製權ヲ大藏大臣ニ與ヘタル所以ナリ以上ノ如ク豫算ト現實ノ收支トハ異ルヲ以テ大藏大臣ハ歳入歳出ノ現計書ヲ調製シ次年度ノ總豫算ニ添付シテ其豫測ノ確否ヲ帝國議會ニ表示スルノ責務ヲ有スルモノトス(此歳入出ノ現計書ノ詳細ハ各論ニ於テ之ヲ辯セン)

七會計機關 會計事項ハ國家ノ歳出入ヲ整理スル行政事務ナリトスレハ此事務ヲ管理スル機關ヲ要スルハ云フヲ要セサル所ナリ此機關ヲ今便宜上以下ノ方面ニ區別セントス(一)歳出事務(二)歳入事務

(三)現金出納事務是ナリ

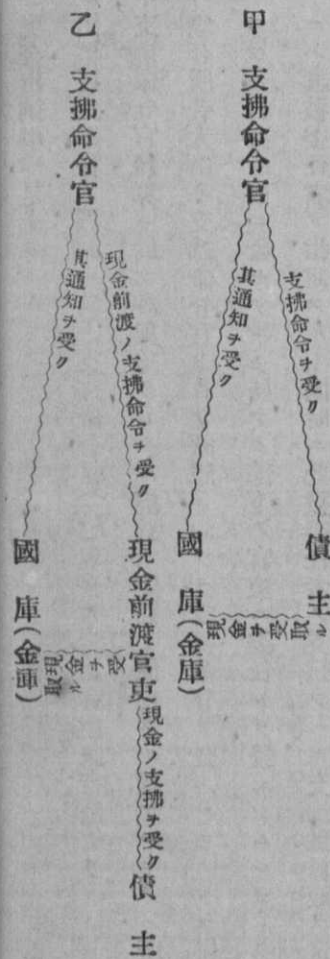
一歳出事務此事務ノ機關ハ(甲)支拂命令官(乙)現金前渡ノ官吏銀行是ナリ

甲支拂命令官豫算ニ於テ許與セラレタル經費ノ定額ヲ使用スル權アルモノハ所管大臣アルノミ此場合所管大臣ハ支拂命令官トシテ國庫ニ向ツテ支拂命令ヲ發スルモノトス併シ此支拂命令ハ必スシモ自身直接ニ發セサルモ妨ナク部下ノ官吏ニ委任シテ發セシムルコトヲ得(會計法第(十三條)此場合ニハ其被委任者ヲ指定スルト同時ニ此被委任者ノ支拂フヘキ支拂豫算額ヲ定メテ委任スヘキモノトス(任命命令委任規定第一條)此被委任者ハ實際ハ各地方行政長官即チ府縣ナレハ知事陸軍ナレハ監督部長臺灣ノ如キハ總督ニシテ又此受任者ハ或ル場合ニ委任ヲ其下級官吏ニ再委任スルコトヲ得ル權限ヲ有セリ此支拂命令官ハ大臣ナルト委任ヲ受ケタルモノタルト問ハス其發シタル支拂命令ニ付テハ公法上ノ責任ヲ有スルモノトス

乙現金前渡ノ官吏及ヒ銀行此官吏銀行ノ性質ハ會計上ノ知識ナキ者ニハ多少了解ニ苦シム點アレハ其概略ヲ説明スヘシ本來主管大臣ハ法律命令又豫算ニ於テ其定額經費支拂ノ權ヲ許與セラレタルモノナルモ其支拂ハ漫漠ニ爲ヌヲ得ス必スヤ政府ニ對シ一定ノ民法上ノ債權ヲ有スルモノナラサルベカラス民法上ト云フトキハ官吏ノ俸給旅費其他手當ノ如キハ或ハ公法上ノ權利ヲ有スル者ニ支拂フニアラスヤトノ反對論ナキニアラサル可キモ予ハ之レヲ支給スヘキ事由カヨシ公法上ヨリ來ルニセヨ一旦支給スヘキコトニ確定セル給與ハ凡テ私權關係タリトノ確信ヲ有ス

トシキ國務大臣ハ政府ニ對シ
正當ノ權ヲ有スルモノトシテ
是レニ依リテハ其權限ハ
公法上ヨリ來ルニセヨ

ルモノナレハ支拂命令官ノ支拂命令ヲ發スヘキモノハ必ス一ノ債權即民法上ノ權利ヲ政府ニ對シテ有スルモノナラサル可ラスト斷言スルモノナリ(會計法第十條第一項)如斯支拂命令官ハ正當ナル債權ヲ政府ニ對シテ有スルモノニアラサレハ支拂命令ヲ發スルヲ得サルヲ原則トスルモ是ニハ一ノ例外ヲ有ス政府ノ行為タリトテ一々債主ヨリ支拂請求書ヲ提出セシメ是ニ向ツテ支拂命令ヲ發シ國庫ヨリ支拂ヲ求メシムル如キハ發スルモノ、煩雜ハ勿論受クル者ノ困難ハ又想像ノ外ニアルヘシ於是乎或ル一定ノ經費即チ國債ノ元利拂、軍隊、軍艦、及ヒ官船ノ經費、外國官廳ノ經費、運輸通信ノ不便ナル地ノ經費(會計法第十五條第二項)ノ如キハ未タ一定ノ債權者ナキモ主任ノ官吏又政府ノ命シタル銀行ニ向ツテ支拂命令官ヨリ現金前渡ノ支拂命令ヲ國庫ニ向ツテ發シ是等ノ現金前渡官吏及ヒ銀行ハ此支拂命令ニヨリ金庫ヨリ現金ヲ受領シ之ヲ以テ一定ノ債主ニ支拂フモノトス此現金前渡官吏、收入官吏、物品會計官吏ヲ併稱シテ出納官吏ト云フ出納官吏ノ責任ニ關スル事項ハ各論ニ於テ詳述スヘシ此支拂命令官現金前渡官吏ト債主トノ關係ヲ圖解スレハ左ノ如シ



出納官吏

此ニ疑問タルハ此現金前渡官吏ノ資格是ナリ此官吏ハ會計法第十五條第二項ニモ明記アルベク必ス官吏タル資格アルモノナラサル可ラス故ニ軍隊ニ於ケル上等兵普通ノ官衙ニ於ケル雇等ニハ其資格ナキモノトス是必竟此前渡官吏ハ出納官吏トシテ其支拂ニ付テハ責任ヲ有シ會計検査院ヨリ責任解除ノ判決ヲ受ク可キモノナレハ一定ノ資格ナキモノ即チ官吏ノ肩書ナキ者ハ此任ニ當ルヘキモノニアラス此他此前渡官吏ニハ分任官アルモ同一性質ノモノナレハ此ニ説明セス(此ニ大ニ注意スヘキハ以上金庫出納ノ機關ナルモ此他ニ政府ノ會計行為即契約ノ締結其他ノ取引ヲ爲シ工部主任トナツテ其行為ヲ爲スモノハ別ニ存スルコトアリ併シ二者同一ノ官吏之ニ當ルヲ普通トス然ルモ資格ハ異ルモノトス)

二歳入事務ノ機關 此機關ハ歳入事務ノ段階ニヨツテ又其機關モ一定セス之ヲ要スルニ歳入事務ニハ其歳入ヲ徵收スヘキコトヲ決定スルモノト此決定ニ基キ徵收ノ任ニ當ル者トノ二箇ノ機關ヲ有ス此第一ノ徵收スヘキコトヲ決定スルモノヲ歳入徵收官ト云ヒ此決定ニ基キ實際ノ徵收スルモノヲ收入官吏ト云フ此決定官ハ租稅等ノ如ク國家カ國家タル資格即公法上ノ事由ヨリ人民ヨリ徵收スル場合ハ通シテ稅務官局長ニシテ收入官吏ハ稅務署長ナリ(只今日尙ナルハ大藏部内ノ長ハ今日主任收入官吏ナリ)其他ノ收納即政府ノ私權行為ヨリ來ル物件拂下代又責罰行為ヨリ來ル罰金料沒收金辨償金ノ如キ收納(徵收ノ語ハ租稅ニ用ヒ收納ノ語ハ普通稅外收入ニ用ユ)ノ決定官ハ各省大臣隨意ニ之ヲ任命セリ大藏省主管タル警視廳北海道廳府縣ノ稅外收入ノ決定官ハ各廳長官トアレハ警視廳總監北海道廳長官府縣知事ナリ此決定事務ハ更ラニ島司郡長區長官立學校長典獄警察署長ニモ委任スルコトヲ得ヘシ(二十六年十一月大藏省訓令第一四十二號諸收入納取扱規程)而シテ收入官吏ハ普通府縣郡警察署ノ屬警部書記ナリ此等稅

外收入ノ測定官ハ各所管ニヨリテ異リ且各省大臣隨意ニ任命スル慣例アリ

三現金出納事務ノ機關 此機關ハ國庫ノ爲スヘキ事務ニシテ其現實ノ事務ハ金庫ナルモノ設置セラレ金庫ノ主トシテ關與スル所ナリ而シテ金庫ノ事務ハ日本銀行ノ取扱フ所ニシテ日本銀行ハ金庫統一ノ主義ヲ貫ク爲メ日本全國ニ配置セル其支店又代理店ニ金庫事務ヲ取扱ハシメ居レリ而シテ此場合ノ日本銀行總裁ハ金庫出納役タル資格ニシテ各支店長代理店長ハ金庫出納役ノ代理者タル資格アリ

此他ニ物品出納ニ物品出納官吏アリ各特別會計タル作業所學校圖書館等ニ歳入歳出ノ命令事務出納事務ヲ取扱フ機關存スルモ各其性質ハ大差ナケレハ之ヲ省キ猶各論特別會計ノ部ニ詳述スヘシ

八歳入歳出ト特別資金 國家ノ歳入歳出ハ猶人間ノ動靜二脉ノ如ク嚴格ナル二大系統ノ下ニ立タシメ決シテ其紛更ヲ許サス若シ此主義ニ反シテ其所管ノ收入ヲ以テ直チニ其支出ニ充ル如キコトアランカ國家全般ヲ通スル收入支出ノ全體ハ之ヲ見ルヲ得メニ鞏固ナル財政ノ基礎ハ確立スルヲ得サルニ至ルヘシ故ニ所管大臣ハ嚴ニ此區畫ヲ確守シテ凡テノ收入ハ之ヲ國庫ニ納入シ凡テノ支出亦之ヲ國庫ノ支給ニ仰クハ吾會計法ノ一大原則ナリ(會計法第二條同第十二條第二項)故ニ各官衙此原則ニ反シテ收入支出ノ一部ヲ貯存シテ特別ノ資金ヲ有スル如キハ法律勅令ヲ以テ特別ヲ許シタルモノ、外決シテ許スヘカラサル事爲ニ屬ス現今此特別ヲ有スルモノハ各特別會計ノ資金及陸軍ノ委任經理ニカ、ル積立金等ナリ各特別會計ハ此資金ヲ運轉シ利用シ又其果實ヲ以テ其目的トスル事業ヲ經營スヘキ義務ヲ有ス

ル者ナレハ此資金ハ此會計ヲ構成スル主要ノ原素ナレハ敢テ間然スル所ナキモ此目的ヲ有セサル官府ノ此行爲ハ決シテ默許スヘカラサルナリ法制此ノ如クナル以上ハ金錢トシテハ之ヲ有スルモノアラサルヘキモ若シ物品トシテ例ノ一定ノ使用目的ヲ有セサル消費物即チ米穀等ヲ以テ之ヲ所有スル場合アリトセハ會計法規ノ認許スヘキ行爲ナルカ是一ノ疑問ニ屬スル所ナリ此問題ヲ決スルニハ二箇ノ先決問題ヲ有ス其一ハ吾會計法第四條ノ特別ノ資金トハ金錢ニ限ルヤ否ヤノ點ト其二ハ若シ金錢ニ限ラスト決セハ各省ニ保有スル官有財産及ヒ物品ト此米穀ト何等ノ差異アリヤノ點是ナリ此第一問ハ現ニ法律勅令ニヨリテ特別資金ヲ有スルコトヲ許サレタル其資金中ニハ他ノ物品ヲ包含セサルヤ否ヲ詮索シ又一面資金ノ性質ヲ研究スレハ其如何ヲ了知スルニ難カラサル可シ然ルニ官立學校及ヒ圖書館會計法第二條ニヨルトキハ學校及ヒ圖書館ノ資金ハ從來所有スル蓄積金政府ヨリ交付シ若クハ他ヨリ寄附シシタル動産不動産及歳入殘餘ヨリ成ルモノトストアリ依之觀之資金ノ語必シモ金錢ニ限ラサルハ判明ナリ然ラハ政府所有ノ動産不動産凡テ之ヲ資金ト云フヲ得ヘキカ否然ラス官有財産管理規則ニヨレハ其第一條ニ於テ官有財産トハ國ノ所有ニ屬スル土地森林原野營造物家屋船舶及ヒ其附屬物トストアリ是等ノ財産ヲ舉ケテ會計法ニ云フ所ノ特別ノ資金ト云フ可ラサルヤ明ナリ是等ノ物件ハ政府ハ之ヲ所有スルニ妨アラストセハ特別資金ノ語如何ニ解シテ可ナルカ曰ク官有財産管理規則外ニ於テ行政ノ設備ニ要スル物件及ヒ豫算又法令ニヨリテ其使用消費ヲ許サレタル物品又參考紀念ノ爲メニ保存ヲ要スル物品及特別會計ノ資金物品ヲ除キテハ政府ハ之レヲ保有スル名義

ナカルヘシ依之觀之豫算及法令上使用消費ノ目的ナキ消費物件ノ保有ノ如キハ予ハ特別資金ナリト云フニ躊躇セサルナリ殊ニ其物件消費物タルヘキ場合ノ如キハ猶此論斷ヲ確ムルヲ得ヘシ何トナレハ消費物ハ決シテ一定ノ使用ノ目的ナクシテ官署ニ保有セシムル如キハ其性質ヨリ見ルモ許スヘキモノニアラサレハナリ又此等ノ物件ハ恰カモ金錢ヲ所有スルト毫モ異ル所アラサレハナリ故ニ予ハ此官府カ保有スル米穀ノ如キハ目シテ之ヲ特別資金ヲ有スルモノナリト斷言シテ憚カラサルナリ

九期滿免除

甲期滿免除ノ性質 期滿免除トハ政府ヨリ一私人(法人モ包含ス)ニ仕拂フヘキ債務又一私人ヨリ政府ニ納付スヘキ債務ニシテ一定ノ期間仕拂ノ請求ナク又納入ノ告知ヲ受ケサルモノハ凡テ仕拂ノ義務納入ノ義務消滅スト云フニアリ債權債務ノ關係ニ期滿免除即時効制度ヲ設ケテ其關係ヲ短期ニ整理セシムルハ至極有要ノ制度ニシテ各國トモ債務關係ニ此制度ヲ設ケサルナシ今吾會計法モ亦此制度ヲ採用セシニ外ナラス今吾會計法ノ法文ヲ掲ケテ論究センニ

第十八條政府ノ負債ニシテ其支拂フヘキ年度經過後滿五箇年內ニ債主ヨリ支出ノ請求若クハ仕拂ノ請求ヲ爲サハルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル

第十九條政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其納ムヘキ年度經過後滿五箇年內ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル

所ニヨル

以上ノ法文ニヨリ歲出ノ期滿免除ト歳入ノ期滿免除ト區別シテ論センニ

(一)歳出ノ場合吾會計法ノ政府ノ負債トハ何ヲ指スカ予ノ信スル所ニテハ私法上ノ債務ヲ指シ己ニ國家カ私法上仕拂フヘキ義務ノ當然成立シ居リテ未タ仕拂命令ヲ發セサルモノ及ヒ己ニ仕拂命令ヲ發セシモ未タ倉庫ヨリ支拂ヲ受ケサル場合ニ限レリ彼ノ支給ニ行政處分ヲ要スル公法上ノ支給タル俸給旅費恩給退官賜命遺族扶助ノ如キハ包含セスト云ハサル可ラス何トナレハ此等ハ其支給スヘキコトノ裁決ヲ經タル後ハ一私人ノ私權即チ私法上ノ債務ニ化スレハ是ヨリ以後ハ此五年ノ時効ニヨリテ支出ノ請求(支拂命令ヲ發スヘキ請求)仕拂ノ請求(支拂命令又其通知書ニテ金額ニ對シテ現金支拂ヲ求ムルヲ云フ)ナキトキハ權利消滅スルモ其以前ノ處分要求權ハ此五年ノ時効ノ關知スル所ニアラスト云ハサル可ラス然ルモ當然此處分行爲ノ決定ヲ要スル恩給遺族扶助ノ如キハ此處分ヲ求ムル權利即公權ハ明カニ三年ノ時効ヲ認ムルモ(退官恩給法第十二條官吏遺族扶助法第十二條軍人恩給法第二十六條市町村立小學校教員恩給法及遺族扶助法第九條第十二條府縣立師範學校公立學校職員退職料遺族扶助法十一條參照)俸給旅費ノ如ク一々決定ヲ要セス又此處分要求權モ認ムルヤ否ヤ不明ナル權利ニ至テハ一見疑問ニ屬スルモ此等

ハ在官在職月日及ヒ旅行ノ道程期間ニ積算シアル金額ニヨリ其實事ノ終了ヲ其決定ト同視シテ時効ヲ起算セサル可ラス故ニ本條ノ政府ノ負債ナル語中ニハ公法上ノ給與ニ關シ特ニ決定ヲ要スル債權ハ包含セスト斷セサル可ラス此與給ト雖既ニ支拂命令ヲ發セラル、ニ至レハ此ニ私權トナリタルモノナレハ此命令ヲ所持シ五年間現金ノ支拂ヲ受ケサルトキハ此現金要求權ハ時効ニカハル

モノトス而シテ法文ノ云フ特別ノ法律トハ整理公債條例第十四條ノ元金ハ償還ノ日ヨリ滿十五年
 利子ハ支拂期日後滿五年後ニハ仕拂ハスト云フノ類ナラン(猶此支出ト支拂ノ點ニ付テハ會計
 規則第四十二條第五十八條參照)

(二)歳入ノ場合。此場合モ公法上ノ納入(租稅手數
 料罰金)私法上ノ納入(拂下代價)二箇ヲ包含スレノ前段公

法上ノ納入モ其處分行爲タル納入告知ナキトキハ納入義務發生セサルニアラスヤトノ論アルモ吾

稅法ニテハ其納入義務ハ告知書ヲ待チテ起ルモノニアラス告知書ハ納入義務確定セシモノニ向ツ

テ發スルモノナレハ此告知ハ時効ノ起算ニ關係ナキモ其中斷ノ効ハ存スルモノトス現ニ地租ノ如

キ物件稅ハ其物件タニ所有又占有(質取主)ノ證アレハ別ニ其物件ニ變動ナクハ其稅額期日マテ一

定セラレ告知書ナキモ其納入義務ハ一定スルモノトス反之所得稅營業稅酒造稅ノ如キハ一々決定

査定ノ行爲アリテ納入義務確定スル者ナレハ此行爲アリテ納入義務初メテ確定ス例令所得稅ハ所

得金額ノ決定ニヨリ其義務確定シ其他營業稅届出酒造稅ノ査定ハ皆此納入義務ノ確定行爲タリ此

確定アルトキハ處分ノ結了ニシテ義務ハ此ニ依テ發生シ其翌年ヨリ期滿免除ニカハル性質ヲ有ス

乙 其期間ノ計算此期間ハ未タ支拂命令ノ發行セラレサルモノハ其私權行爲タル賣買讓與工事製造ノ

結了恩給扶助退官賜金ノ決定アリタル年度ノ翌年度ノ始即四月一日ヨリ起算シテ五年ニシテ其權

利ヲ失フ一度支拂命令ヲ發セラレタルモノハ中斷アリタルモノナレハ此命令發行ノ年度ノ翌年度

初即四月一日ヨリ又五年ニシテ期滿免除トナリ(現金前渡官吏ト其私權行爲ヲ爲セシ者ハ直テニ現金支拂ヲホメ
 得ヘシ求メサルトキハ其權發生翌年ヨリ五年ニシテ時効ニカ
 ハル其官吏ノ前渡結了後ハ普通ノ手續ニヨル
 ヘキモノトス即一文ノ手續ニヨルモノトス)

リ五年ニシテ其義務ヲ免ル何レノ場合モ其事實ノ發生ノ翌年四月一日ヨリ起算シテ滿五年ナリ

丙 此期滿免除ノ中斷 此中斷方法ハ(一)支出ノ請求即チ支拂命令發行ノ請求(二)支拂ノ請求即現金交

付ノ請求(三)同政府上納ノ告知ナリ此行爲アレハ政府一私人共其義務ハ免レス併シ此中斷アルモ

更ラニ翌年度初ヨリ又期滿免除ノ進行ヲ始ムルモノトス

此政府ノ歳出金ニシテ決算ニ立チタルモノ即支拂命令發行濟ノ資金ニシテ其時効滿期了迄債主ノ

支拂要求ナキモノハ次年度ノ歳入ニ組入ルヘキモノトス(會計規則第四十八條)